

優秀賞

## 「ぼくのおかあさん」

徳島県 徳島市立加茂名南小学校二年 伊はまけん一朗

ぼくのお母さんは、ぼくが行っている小学校の先生をしています。だから、朝、「行ってきます。」

と言つても、またすぐに、学校で会います。

おかあさんがいつしよの学校にいると、べんりです。おもいにもつをもってかえる時は、こっそりおかあさんのところにおいてきます。わすれものは、そっとうかりに行きます。でも、ひみつがばれて、おこられることもあります。

おかあさんは、いえでは、ごはんを作ったり、せんたくやそうじをしてくれます。学校では、べんきょうをおしえたり、クラスの子のせわをしたり、絵をはったりして、いそがしそうです。いえでは、ぼくだけとあそんでくれているので、一年生のときに、おかあさんがよその子と手をつないであそんでいるのを見たとき、ちよつとびっくりしました。いえのおかあさんと、学校のおかあさんは、顔がちよつとちがうかんじがします。でも、おかあさんは、どつちもよくがんばっています。

きょ年のあき、おかあさんが、きゅうにびょう気になって、入いんすることになりました。入いんするまえの日、おかあさんは、ぼくのことをしんばいして、ノートにいろいろ書いておとうさんにわたしていました。

手じゅつのつぎの日、お見まいに行きました。おかあさんのくびには、ほうたいがまいてあって、くびからチューブみたいなものが出ていました。チューブの中には、ちがついていました。ぼくは、こわくておかあさんのほうを見るできませんでした。おかあさんがしんでしまうような気もちがして、なみだが出ました。いえでも、学校でも、おかあさんがいなくて、とてもさびしくて、元気がでませんでした。

おかあさんは、いまはもとどおり元気になって、いえでも学校でも、うごきまわっています。ぼくとおとうさんは、ときどき、足ツボマッサージをしてあげたりします。おとうさんは、おかあさんのお手つだいをいっばいしています。ぼくは、おかあさんを大じにしてあげたいです。おかあさんのしんどいところをへらしてあげたいです。そして、百さいまで生きてほしいです。

学校では、本とうは、おかあさんのことも「先生」とよばないといけないけれど、ぼくは一年生の時からずっと「おかあちゃん」とよんでいます。まわりでは、びっくりする子もいるけど、ぼくのおかあちゃんだから、学校でもずっと「おかあちゃん」とよびたいです。

おかあちゃん、ぼくをうんでくれてありがとう。ごはんをつくってくれてありがとう。やさしくしてくれてありがとう。おこってくれてありがとう。いっばいっばいありがとう。